

保護者・地域の皆様へ

令和7年度 赤穂市立赤穂中学校

学校評価・学校関係者評価の公表について

すでに実施しております「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果・分析を資料として、来年度に向けての具体的な取組や改善策を検討するとともに、その内容を「学校運営協議会委員」の方にご覧いただき、学校が自分たちの教育活動を正しく評価し、適切な改善を行おうとしているかについて、さまざまなご意見をうかがいました。

今回は、それを「学校評価・学校関係者評価」として集約したものを、保護者の皆様には配布の上、ホームページにて公表いたします。

来年度へ向けて、タブレットを活用したICT教育を含め、個に応じた学習、居場所づくりによる不登校対策、危機管理を含めた安心で安全な学校づくりなど、浮き彫りになっている課題について、具体的な取り組みの推進を図って参ります。保護者・地域の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動へのご理解ご協力をお願いいたします。

令和8年3月

赤穂市立赤穂中学校
校長 小野 晴也

令和7年度 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校経営方針・重点目標

【学校教育目標】	【目指す生徒像】	【目指す教師像】
『志を持ち夢の実現に挑戦する、 自立する人づくり』 ～ふるさと赤穂を想い、 夢の実現への気概あふれる学校をめざして～	校訓 『明けく 浄く 直く』 明けく〔公明正大で、切磋琢磨して学習に真剣に取り組む生徒〕 浄く〔心や行いがきれいで、正しい行動ができる生徒〕 直く〔素直で誠実な生徒〕	I 人権感覚を磨き、生徒一人ひとりを大切に作る教職員 II 生徒の自律と学力を願い、工夫と改善に努める教職員 III 生徒の心に寄り添い、成長や発達を常に温かく支える教職員 IV 生徒の意欲や可能性を伸ばし、互いの自己有用感を高める教職員 V 自分を磨き、更なる高みを志向して、怯まず自己変革できる教職員

2 自己評価結果（1～4） 1：よく当てはまる 2：やや当てはまる 3：あまり当てはまらない 4：全く当てはまらない

NO	評価項目	自己評価結果				分析と改善の方策				
		1	2	3	4	1	2	3	4	
◆学習指導 【本年度の学校経営基本方針】	○「確かな学力」を育むため、授業公開や研究協議をとおして、「主体的・対話的で深い学び」実現への工夫と改善に努め、教育活動の質的向上をめざす。また、個々の生徒の学力把握に務め、つまずきの解消や系統性を重視した指導を推進する。									
1	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を促進している。	5	20	3	0	18%	71%	11%	0%	◆学習指導 <成果> ○生徒のつまずき解消を重視し、分かりやすく主体的に取り組める授業の研究を工夫することができていて、生徒の実態に応じた授業展開ができています。 ○授業公開と日常的な意見交換によって、生徒が主体的に取り組む姿勢について授業研究や事後研究などで、時代に合った授業展開ができており、授業力向上が行われている。 ○タブレットを用いた学習活動には、ほとんどの生徒が前向きに取り組み、自ら学ぼうとする生徒が増えてきている。 <課題> ○「学びに向かう意欲や育成する指導方法の研究を行っている」の項目が発展途上であり、これについて、取組方の情報交換（教師間の授業見学や授業公開）などを行い、教員自身の意識を高める必要がある。 ○授業でも「書く」機会がだんだん減っているように感じる。その結果「書く」力が確実に低下している。 ○学習意欲（調べ学習、発表等）の差が大きい。ICTの授業展開を、どうすべきかわからないことが多かったり、教科によって使いにくいかったり、ICT機器の活用にとめらひを感じている授業もある。効果的な対話の在り方やICT機器の使用方法を学校を上げて取り組むか、個々に県教育総合センターが開講している研修に積極的に参加していく必要性を感じる。 <改善の方策> ○学校全体で他教師の授業見学日（週）を設け、教師間の授業見学ができる機会を増やし、気軽にお互いの授業を見に行ける雰囲気を作る。その傍らで、ICT機器やデジタル教材を堪能に使っている先生の授業見学を行い、そこからできる単元でICTの活用をすすめたり、研修を実施したり、できることから取り入れていく。 ○ICT機器も必要であるが、しっかりとした板書計画を立て、知識が定着したかどうかの確認をすることも必要である。その際に「書くこと」にも重点を置く。つまり、ICTの活用と自分の手で書き、自分の頭で考える事はどちらも学力向上には欠かせないことであり、全教科で取組を考えていく必要がある。 ○朝学等を利用し、繰り返し学習を行い基礎基本の定着を図りつつ「書くこと」についても力を入れる必要がある。その時間帯に調べ学習等を入れ、自ら学びに向かう力の育成を行っていくのも効果的であると考え。
2	学力の把握に基づいた、つまずきの解消や系統性を重視した指導の充実を行っている。	5	21	2	0	18%	75%	7%	0%	
3	自ら「学びに向かう意欲」を育成する指導方法の研究を行っている。	5	20	3	0	18%	71%	11%	0%	
4	ICT機器を活用した授業展開と学習形態の研究を行っている。	6	11	11	0	21%	39%	39%	0%	
5	授業公開（相互参観・研究協議）と日常的な意見交換による授業力の向上を行っている。	3	15	9	1	11%	54%	32%	4%	
6	<GIGAスクール構想>教職員のスキルアップと効果的な授業展開の研究を行っている。	1	13	13	1	4%	46%	46%	4%	
7	指導と評価の一体化の観点別評価を行っている。	7	17	3	0	26%	63%	11%	0%	
8	誰一人取り残されない学びの保障に向けた取組の充実を行っている。	4	18	6	0	14%	64%	21%	0%	
9	生徒の良さや可能性を伸ばし、自己指導能力を育てる取組を行っている。	5	21	2	0	18%	75%	7%	0%	
10	自分を磨き、高め、深め、教育のプロとして自己変革ができる取組を行っている。	3	21	4	0	11%	75%	14%	0%	

◆生徒指導【本年度の学校経営基本方針】
 ○生徒が互いの個性を認め合う共感的な学級づくりを推進し、一人ひとりが自己有用感を感じながら、主体的に気づき、考え、実行できる自律した生徒の育成を図る。
 ○様々な視点から生徒理解を深め、心に寄り添った支援をとおして、生徒に自己指導能力の伸長を図る。課題を抱える生徒には、教職員のチームワーク、保護者や関係機関との協働・連携によってその成長を支える。
 ○報告、連絡、相談を徹底し、日頃から風通しの良い情報共有の風土を醸成する。その上で、問題発生時等に迅速かつ適切に、配慮ある対応をする学校組織の確立をめざす。

11	生徒や保護者の心に寄り添い、成長や発達を支える生徒指導を行っている。	9	17	1	1	32%	61%	4%	4%
12	生徒の個性や可能性を伸ばし、自己指導能力の伸長を図る生徒指導を行っている。	1	20	2	0	4%	87%	9%	0%
13	報告、連絡、相談の徹底を基盤とした、生徒の心のSOSの早期発見を行っている。	11	15	2	0	39%	54%	7%	0%
14	学校としてできることを正しく行い、チーム学校としての指導の充実を行っている。	9	15	3	1	32%	54%	11%	4%
15	いじめの未然防止、早期発見と部外専門家と連携した組織的な対応を行っている。	7	8	3	0	39%	44%	17%	0%
16	不登校生徒の状況に応じた学びの確保と外部機関と連携した温かな自立支援を行っている。	7	19	2	0	25%	68%	7%	0%
17	「人づくり」実践項目	-	-	-	-				
	-①人を大切に（礼儀、あいさつ、声かけ、誠実な対応）を行っている。	15	12	1	0	54%	43%	4%	0%
	-②整理整頓（生活場所の整理整頓の徹底、清掃活動の充実）を行っている。	12	16	0	0	43%	57%	0%	0%
	-③やさしさ（相手の立場を考えた言動や思いやり）を行っている。	14	13	1	0	50%	46%	4%	0%
	-④心に寄り添う（まず、相手の話を聞くことから）を行っている。	13	14	1	0	46%	50%	4%	0%
	-⑤感謝の心（おかげさま、おたがいさま、ありがとうが溢れる学校）を行っている。	14	12	2	0	50%	43%	7%	0%
	-⑥JRC（青少年赤十字）態度目標「気づき、考え、実行する」の具体的活動の実践を行っている。	4	21	3	0	14%	75%	11%	0%
	-⑦施設・設備の異常箇所の早期発見と早期対応（破損を放置しない営繕の実施）を行っている。	5	20	3	0	18%	71%	11%	0%
18	心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する取組（タブレットの活用）を行っている。	5	17	5	1	18%	61%	18%	4%

分析と改善の方策

◆生徒指導

<成果>

○概ね「チーム学校」として、生徒指導への対応ができており、学校全体として落ち着いている。また、時代に即した対応やルールの方角性も定まりつつある。そのため、学習環境や規律は生徒主体で落ち着いた雰囲気を作り出している。

○ボランティア活動に自分から積極的に参加する生徒が多く、保護者や外部機関との連携の意識が見られた。
 ○ほとんどの教師が「報告・連絡・相談」を心がけ、生徒の変化を敏感に読み取ろうとしている。不登校生徒への対応は、担任だけではなく学年や多くの教師が関わっている。

<課題>

○個々にはいろんな課題を抱えており、それぞれの状況に合わせた指導が必要である。いじめの未然防止として、日々の生徒の変化や生活ノートから生徒の心情に寄り添った姿勢を大切にしたい。また、問題が起こってから指導より問題をおこさせない生徒指導・学級指導・教科指導や危機管理が必要である。

○生徒の実態を踏まえた上での指導に対して、個に応じた対応や自己有用感を感じさせる指導までは至っていないと感じる。また、JRC活動をさらに活性化していき、少なくとも、その態度目標である「気づき 考え 実行する」が合言葉として浸透するような学級経営、生徒会活動である必要があるように感じる。

○生徒や保護者の心に寄り添った指導についての自己評価は高いが、保護者アンケートの結果から、これらに関する質問での評価はAB評価が70%前後と低い。特に、困っていたり、悩んだり、本当に支援が必要なことについて、教師への相談がしにくいと感じている生徒や保護者が多い。

○SNSの使い方が良くななくトラブルや、SNSから他校生や見知らぬ人とのつながりによるトラブルが増え始めている。また、相手の顔が見えないところで、嫌な気持ちにさせる投稿をしていることがある。

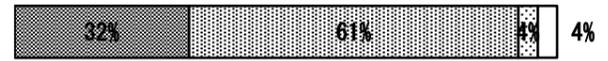
○不登校生徒に対しては、学級により対応の差があるように感じる。不登校未然防止としてスクリーニングシートの実施等を行い、個に応じた対応ができるようになると良い。また、家庭訪問についてもチームとして早急で丁寧な対応が必要であるように感じる。

<改善の方策>

○学級経営や生徒指導の研修会を行い、若い教員も基本的な指導のあり方や指導技術について学ぶ。
 ○JRC活動をさらに活性化させ、生徒指導についてもその活動が反映されるような学校運営、生徒会活動が必要であると感じる。

○問題があったとき、目撃情報を教えてくれる生徒も結構いる。普段からのコミュニケーションを大切にしていきつつ、保護者との連絡を密に行い、お互いに協力しあう姿勢を崩さずに対応したい。そして、チーム学校として動いていく。

○SNS関係については、家庭へも繰り返し注意喚起を行う必要がある。また、年1回の研修会にも出席してもらい中高生を取り巻くネット環境への理解を深めてもらう必要がある。



◆特別活動 ◆人権教育【本年度の学校経営の基本方針】
 ○生徒会活動を軸とした取り組みの中で、自主的活動や仲間づくりへの意欲を喚起させ、感謝と思いやりの心を育みつつ、支え合い、高め合う集団への進化をめざす。
 ○人権への知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自己の大切さと共に他者の大切さを認めることができる生徒を育成し、すべての生徒が安心して学び、活動ができる学校環境[人・物・心]をつくる。

19	生徒が活躍できる場を創り、一人ひとりが大切にされる居場所の確保を行っている。	7	20	1	0	25%	71%	4%	0%	
20	快適で温かみのある、命を大切にできる安心安全な学校環境の構築を行っている。	8	19	1	0	29%	68%	4%	0%	
21	相手を思いやる温かい言葉遣いを行っている。	9	17	2	0	32%	61%	7%	0%	
22	個性を認め合い、支え合う共感的な人間関係のある学級づくりの推進を行っている。	6	21	1	0	21%	75%	4%	0%	
23	生徒会を中心とする自主的活動や集団活動への積極的な支援により、感謝の心や思いやりの心を育み、支え合い高め合う集団づくりの推進を行っている。	10	16	2	0	36%	57%	7%	0%	
24	日々の積み上げが必要な係活動や清掃活動への取組の強化を行っている。	6	20	2	0	21%	71%	7%	0%	
25	「道徳」の授業力向上と人権教育の視点を重視した授業展開の研究を行っている。	4	20	3	0	15%	74%	11%	0%	
26	体験活動の充実によるキャリア形成と、キャリアプランニング能力の育成を行っている。	5	20	3	0	18%	71%	11%	0%	
27	進路選択における情報の充実とキャリアノートの活用を行っている。	6	19	3	0	21%	68%	11%	0%	
28	「教職員の人権意識向上のために(Human Rights)」の実践と点検を行い、校内研修の充実による生徒理解、指導力向上を図っている。	7	16	5	0	25%	57%	18%	0%	

分析と改善の方策

◆特別活動 ◆人権教育

<成果>

- 今年度も生徒会を中心とした学校づくりや自主的活動がなされている。また、生徒会幹事や専門部長たちも、学校をいい方向へ動かそうとしているのが伺え、その姿が、全校生徒へも波及していている。
- ボランティア活動や自主的に参加できる場があり、生徒自身が考え行動している。
- 個性を認め合い、安心した学級づくりができています。

<課題>

- 力はあっても、人前で自分を表現することが苦手な生徒が少なからずいる。人の顔をうかがう、教員に答えを求める、めんどうだといってあきらめる様子がある。
- 地域との連携を密にする(地域の方や地域の人材資源を活用した教育活動の推進を行う)。
- JRC活動への意識が生徒・職員の中に薄れていると感じる(行事などの活動での振り返りを生かして、学校生活につなげていく)。
- 来年度を見据えて赤穂中学校Human Rightsを浸透させ、一層の人権教育の中で人権の視点を重視した授業研究を意識するべきである。
- 更なる居場所づくりを推進し、自己有用感を感じつつ安心して通うことができる学校の実現をめざす必要性がある。

<改善の方策>

- まずは生徒をほめ自己有用感が味わえる学級であることが大切であると思う。自他ともに認め合うことで、人権意識の向上を図る活動を学年委員会や生徒会活動の中に取り入れていく。その中で、JRC活動の活性化を推進していく。
- 人権教育とは学校教育の全領域で行われるものであるという意識をもち、生徒の指導にあたる。その中で、学校で実施した活動をもとに、今後の生活に活かす声かけや指導で生徒にも意識付けを行う。
- キャリア担当だけがキャリアノートの活用計画を考えるのではなく、担任全員で共通理解し、生徒が先を見通したキャリア教育を実践できるような下地づくりを行う必要がある。

◆特別支援教育の充実【本年度の学校経営の基本方針】
 ○特別支援教育の充実を図り、すべての生徒が互いに認め合い、生き生きと学べる環境をつくる。個別の教育支援計画・指導計画を活用し、切れ目のない一貫した支援を努める。

29	特別支援教育の充実を図り、全ての生徒が認め合い、安心して過ごせる学校づくりを推進している。	6	20	2	0	21%	71%	7%	0%	
30	個別の支援計画、個別の指導計画の有効活用による切れ目のない一貫した支援を行っている。	9	15	4	0	32%	54%	14%	0%	

分析と改善の方策

◆特別支援教育の充実

<成果>

- 支援を要する生徒が多い中で、個に応じた知識や理解を深め対応が組織的にできている。
- 生徒一人ひとりのニーズに合った支援で安心できる環境の整備ができています。
- 交流学級でも、安心して過ごせる学校づくりを進め、教室にも入りやすい雰囲気を作っている。

<課題>

- 様々な特性や多様性をもつ生徒への合理的配慮や支援など特別支援学級のみならず、通常学級にもおいても必要とされるため、充実した支援が行えていない(小学校との引き継ぎ内容を全職員で共有し、教育活動を行っていく必要がある)。
- 特性の多様化もあり職員の手が回りきっていない現状、複雑な家庭環境に対応しきれっていない面もある。

<改善の方策>

- 職員間の連携を密にし情報共有を行い、特に個別の支援計画・指導計画から、正しい知識を持つ。
- 特別支援教育推進委員会で出た意見等の情報共有を確実にし、学校では解決できない問題について、関係機関と連携しつつ適切な支援が行えるようにしていく。
- 周りの生徒も育てつつ、生徒同士で教え合いや助け合いができるように指導も柔軟にしていく。
- 専門機関やSSW、行政と連携を密にとり、教職員の研修や支援の協力を依頼する。

◆学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進【本年度の学校経営の基本方針】									
○福祉活動やJRC活動、地域行事への参加など、地域に貢献し、活躍する中での生徒の育成をめざす。また、学校情報の発信、地域団体との連携、オープンスクールの拡充、地域人材の活用など、地域に愛される学校として、地域に根ざした教育活動を推進する。									
31	地域人材・資源を生かした多様な教育活動の創造を行っている。	4	16	7	1	14%	57%	25%	4%
32	オープンスクールの拡充と参観者の意見を活かす取組を行っている。	2	23	3	0	7%	82%	11%	0%
33	コミュニティスクールによる、「地域とともにある学校づくり」を行っている。	5	22	1	0	18%	79%	4%	0%
34	地域の方々や生徒との交流の促進（あいさつ運動、地域行事への参加）を行っている。	6	20	2	0	21%	71%	7%	0%
35	学校だより、学校ホームページ等による学校情報の発信を行い、学校を身近に感じ、学校の息遣いが伝わる記事の発信を行っている。	6	20	2	0	21%	71%	7%	0%
36	保護者・地域宛発信文書の「見やすく、わかりやすい」内容と紙面の工夫を行い、学校メールシステム、連絡アプリによる、確実な連絡体制を確立している。	3	20	5	0	11%	71%	18%	0%

分析と改善の方策	
◆学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進	
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○メールシステムやアプリ、留守番電話機能の導入について、一定の理解と協力が得られるようになってきた。職員としても利便性が高く、校務に専念する時間的な余裕が生まれ負担も軽減されている。 ○学校便り・学級通信などもこまめに発信され、学校の様子が伝えられているように感じる。 ○昨年度より保護者を含め地域が、赤穂中学校をより好感的に受け止めてくれているように感じる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○配布プリントがきちんと保護者に渡らない家庭がある。テスト結果も、渡しきりになり押印して回収もないため、確認をされていない保護者も多くいるようである。 ○PTA活動など、管理職が対応することが多く、職員は楽になったが、管理職の負担が大きいと感じる。また、保護者の方と関わる機会がほとんどなくなったこともあり、PTA活動の再編と活動の見直しも必要である。 ○幼小中高の異校種連携の推進を進める。多様な価値観の保護者への対応が難しくなる一方、地域で起こった問題行動が、即学校への苦情となっている現状に疑問を感じる。 <p><改善の方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○重要な文書を配布した場合、引き続き連絡メールで周知し家庭でのチェックを促したい。一方で、ICT機器やHPを活用し、ペーパーレス化も徐々に推進していく。 ○PTA本部役員や学校運営協議会と、教職員の懇談会を計画し、学校の困り感や思いを知ってもらう機会を設ける必要があるように思う。その中で、学校運営の協力や理解を図る。 	

◆学校・教職員									
37	兵庫県教員資質向上指標を基にした計画的な研修の促進を行っている。	5	19	4	0	18%	68%	14%	0%
38	PDCAサイクルによる全教育活動の検証・評価（業務改善推進委員会の活用）を行っている。	1	18	7	2	4%	64%	25%	7%
39	「毎週水曜日のノ一部活デー」「定時退勤日」の完全実施と記録簿を活用した教職員の意識改革と勤務時間の適正化を行っている。	3	18	5	2	11%	64%	18%	7%
40	小中教職員の授業交流等による異校種相互理解の推進を行っている。	1	19	6	2	4%	68%	21%	7%
41	児童生徒の学校生活環境のギャップの解消（保幼小中の一環した指導方針の確立）を行っている。	1	17	8	2	4%	61%	29%	7%
42	児童生徒の学校生活環境のギャップの解消（保幼小中の一環した指導方針の確立）を行っている。	1	17	8	2	4%	61%	29%	7%
42	小中連絡会の拡大（生徒指導、教育課程、学習指導、外）を行っている。	3	20	5	0	11%	71%	18%	0%

分析と改善の方策	
◆学校・教職員	
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体的に教職員間での連携（相談や報告）がしやすく、職場の雰囲気（温かみのある）が良くなった。 ○生徒一人ひとりに寄り添え、丁寧な言葉遣いで話をする職員が多い。 ○定時退勤までとはいかないが、帰るときは帰るという姿勢が見え始め、勤務時間の適正化につながっている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての教員が気持ちよく働く環境整備を行う。また、勤務時間の適正化とPDCAサイクルの実践等とのバランスの難しさを感じる。 ○保護者の価値観の多様化・複雑化が近年拡大しつつあり、全てのニーズに対応するには難しい。 <p><改善の方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の現状を踏まえ、関係機関の協力や市として外部委託できるところを依頼していく。 ○校区内の小学校ともっと連携し、小学校で積み上げてきたものを中学校でさらに効果的なものになるようにしていければと思う。そのためにも、相互の授業参観であったり、何気ない情報交換会を実施できればと思う。 ○若い先生方が、失敗もしながらのびのびと活躍、対話や相談ができる職場、職員室を創造し、生徒たちのためにも教員同士の連携を図り、働きがいのあるチーム学校を確立する。 	

令和7年度 学校関係者(学校運営協議会)評価

(A) 自己評価の結果について

- ・先生方が日々努力されている姿が見てとれます。学校経営方針や重点目標を常に意識して、生徒と向き合ってくださいていることを感じ、人づくりの実践項目の高い値に先生方の人間性が表れていて感謝します。
- ・個々の自己評価については授業の形態の変化によりこれからもきめ細やかな努力が求められるものだと思います。今後も先生と生徒がお互いに積極的に学ぶことで評価は上がると思います。ただ、義務教育だからといって受け身に、ただやらされているだけではいけないと感じています。
- ・校長が変われば、学校が変わる良い1年間であると思います。限られた職員の中で、若い職員への育成が実を結んでいると感じています。
- ・「授業や学級活動等で意見を発表する機会が多い」という質問項目に対して45%の生徒が悲観的に評価している。昨年度と比較しても好意的に回答した割合が少なくなっている状況がある。子どもたちが思ったことを言いやすくする環境作りが必要であるように感じる。また、保護者アンケートは、昨年度よりも前向きな回答も多く良い成果の現れと捉える反面、質問項目によっては無回答の割合が高くなっていることについて情報公開や分析の仕方についても、今後工夫が必要である。
- ・概ね達成されてはいるが生徒アンケートは昨年度に比べて、ポイントが減っている項目が多いのが気になります。しっかりと振り返りを行い、次年度に活かして欲しいです。

(B) 分析と改善策について

- ・教師間の授業見学が少ない等、今の時代は通用しないのではないかと。指導力アップのツールとしてリモートや録画等いろいろと模索して欲しい。
- ・様々な考え方のある先生がいる中で、「チーム学校」として対応していただいているのは、ありがたい。SNSでのトラブルは尽きることがないので、引き続き保護者にも注意喚起を行い継続した指導をお願いします。
- ・校区内の小学校との連携については賛同いたします。是非とも推進していただきたいと考えております。
- ・どの項目についても、分析と改善策について良く考えられていて、妥当だと思います。開かれた学校づくりの推進の基本方針の改善策のところにあるPTA本部役員や学校運営協議会と教職員の懇談会の計画、是非そのような機会を設けていただけたらと思います。
- ・忙しい学校現場であると思いますが、上記に上げたことを実現するために、生徒と先生の何気ないコミュニケーションを多く持つことが何よりであると思います。

(C) 課題と提言について

- ・親には話せないけど、先生や友だちには話せる。自分の居場所がある。学校生活のほとんどを過ごす中学校が、安心して過ごせる場所であって欲しいと思います。
- ・教師へ相談がしにくいと感じている生徒や保護者が多いことについて、交流の場を広げることしかないと考えています。
- ・生徒は人として学びの多い時期だと思います。人と人が触れ合える機会が多くなるような学校行事や地域の行事等にも積極的に参加して欲しいと思います。
- ・便利なタブレットやスマホの影響で学習面や対人関係が簡素化し、想像したり深く思慮する機会が減っているような気がします。生の反応や体験など心や肌で感じる経験を増やしてあげたいです。